

牧草種子生産の現場より～良いタネをお届けするために～札幌種子センターのご紹介

弊社札幌種子センターは、平成14年秋に当時の雪印乳業㈱のアイスアリーナ（アイスホッケー競技場）を改築利用することで、道内牧草種子の物流拠点として営業開始致しました。アイスアリーナを建設する前は弊社の研究農場だったため、約25,000坪と敷地は広く、中には当時の酪農のシンボルであるレンガサイロやさっぽろ・ふるさと文化百選に指定の「出納邸」や「恵庭荘」を残し、雪印乳業㈱の前身である「北海道製酪販売組合連合会」発祥地としてのバター記念館もあります。また敷地内には園芸センターを併設し、春には園芸資材や種子、苗木（バラ園併設）を求めてご利用下さるお客様に大変喜ばれています。

設備概要

○保管・発送設備

種子センターの倉庫床面積910坪の中に温度・湿度をコントロールする定温倉庫3室(187坪)があり、原種の備蓄、飼料作物種子、野菜種子を適正な条件で保管しています。倉庫中央にある自動開閉式移動ラック（3段積み×17棚、約110坪）に約400トンが収容保管でき、定温倉庫内にも固定ラック棚を設備しており、パレット積み積み加重による荷痛みを軽減する保管方法を取っています。

写真1（左側：製品保管移動ラック、奥中央：牧草用定温倉庫、右側：パレット積み原料種子）

○製造加工設備

包装原料種子や精選が必要な原料は、全て原料ビンに切り込まれ、全自動制御で包装機及び精選機にビンが設置される仕組みになっております。（約700kg投入可／1ビン）通称自動倉庫と言っており、原料ビンは60本設置されております。

製造は種子の袋詰作業が主で牧草種子は、500g詰と1kg詰を2台のコンピュータースケールを搭載した自動包装機で行っております。また、草地事業用種子は面積単位の小袋詰包装が主体であることから、2台の

半自動包装機（ポリ袋やクラフト紙の単袋による手受け充填包装）を利用していますが、組合せ、重量に間違いがないよう、手作業による確認も実施しております。その他、5kg～30kgまでのバラ詰専用包装機を1台保有しております。

より純度の高い種子をお届けする為に精選は重要な作業です。除去目標物によって使い分けを行ないますが、風の力で軽いものを除去する真空吸引風力選別機、粒形物の虫食いや半割れ種子を取り除く比重選別機、異物を除去する丸網自動篩い、種子の大きさを揃えるディスクセパレーターなどが自動倉庫と連結しており、より良い種子をお届けできる体制を整えております。



写真1（倉庫内部）

センターの年間業務

札幌種子センターは、年間、約3,000tの物流を担っておりますが、北海道は降雪地帯であるため、府県の春・秋2シーズン制とは違って、発送は3月後半から8月お盆過ぎまでが出荷シーズン期となります。このため、牧草、植生種子は2月早々から包装作業を開始します。3月には緑肥作物種子とトウモロコシ種子の袋詰作業が加わり、4月以降は麦類の大量入荷時期と重なって、包装作業と発送作業が同時進行します。5月の連休明けまでが業務の最盛期となり、その後8月末まで草地事業用種子の包装作業が続き、秋口から翌年1月中旬まで枝豆種子の精選作業を実施しています。



写真2 (製造プラント)



写真3 (種子検査室)

商品管理と品質保証

私たちは、お客さまに安全な商品を提供することを優先し、法令、社内規程に基づく安全のためのチェック、確認を繰り返し実施しています。

そのため、種苗、種子の生産、調達に際して、安全で良質な商品を確認するために、生産圃場への専門担当者の派遣とチェック及び仕入時の各種規制に基づく厳重な照合や確認を行って調達しています。

一般牧草種子は、海外子会社のSnow Brand Seed U.S.A Incを通じて、主に1～4月期に入港し、一部は営業倉庫に仮保管しますが、入庫検品後はただちに種子センター内にある種子検査室でロット毎に国際種子検査規程(IRST)に合致した品質検査を行っています。

草地事業用種子は、日本草地畜産種子協会の検定(品種証明と品質合格)を受け品質保証表示を添付、また、飼料用トウモロコシ等はGMO検査も実施して種子の安全を確認してから包装、出荷を行っています。

現場では、「タネは生き物」という特性を鑑み、物流プロセス管理を徹底するため、従業員は緊張感を持って商品管理に鋭意努めております。

製造、出荷にあたっては、定められたルールに従っ

て商品化することが高い信頼性と安全・安心を担保することであり、次の手順で品質管理しています。

取扱い種苗、種子の多くが国が定める種苗法の対象に指定されており、流通には品質と表示に関し、同法の適用を受け、その他、農薬取締法、製造物責任法(PL法)、外来生物法、計量法及び社内種苗品質管理規程に基づく厳密な検査・確認によって実施しています。

また、ホームページに寄せられたご意見、日常の営業活動によって知り得たお客さまからの情報を活かし、現有の商品品質に満足することなく、更なる機能性や利便性を高める商品の開発やサービスの充実を求めて参ります。

最後に、当種子センターはアイスアリーナの建物を利用することで天井が高く、断熱材効果で夏は冷涼、冬は凍る事もなく、種子の保管と配送には好適です。私たち現場スタッフは、お客さまからの「雪印のたね」のブランドに対する信頼にお応えするため、今後共商品管理に一層努めて参ります。

(札幌種子センター 宮川)